

議事録

第1回 西東京市立田無第三中学校 学校運営協議会（要点記録）
日 時 令和8年4月24日（金）午後2時30分から午後3時30まで 場 所 田無第三中学校第2音楽室 出席者 委員 宇田 剛委員、本田 雄三委員、曾我部 多美委員、島崎 寛巳委員、 小保内 俊雅委員、伊藤 慎一委員、加藤 直美委員、鈴木 愛美委員、 鈴木英暁委員、大久保 順子校長 学校職員 脇山 聖司副校長 窪田 将樹主幹教諭 欠席者 伊藤 慎一委員 委員10名中9名出席により、本会議は成立
次第1 校長挨拶
次第2 委嘱状の交付 ・委員予定者に令和8年度の学校運営協議会委員を委嘱
次第3 協議会委員の紹介 ・各委員の自己紹介
次第4 会長、副会長の選出 ・会長に宇田委員、副会長に曾我部委員、島崎委員を選出
次第5 学校経営方針説明（協議会司会 宇田会長） 会長 学校経営方針について説明願いたい。 校長 教育目標について。「よく考え進んで実行する人間」「思いやりがあり心豊かな人間」「丈夫な体を作り心身ともに健康な人間」の3点である。これに基づき、資質・能力の「三本柱」を育成するための教育活動を展開したいと考えている。 基本理念として、「子供たちの力を育てる教育活動の創造」「子供・保護者・地域のつながりの展開」「教育情報の透明な発信」これらを通じ「笑顔と真心あふれ、夢を育む学校」を目指す。 目指すべき生徒像として、「自治」を重視する。生徒自らが主体的に考え、高め合う姿を目指したい。具体的には、自ら課題を見つけ計画・実行できる力、他者と協力できる心、前向きに挑戦し続ける健康な心身を育成していく。また、教師も「生徒に寄り添い、挑戦する教師」であることを目指す。 各学年の授業時数は1,015時間、年間日数は1年207日、2年208日、3年205日を予定している。部活動についてはガイドラインを遵守し、平日は週3日以内、土日のいずれかを休みとする運用を行っている。全教員が部活動に関わっているのが本校の特徴である。 重点的な取り組みについて ・主体的な学びの充実 単元を通じた「課題発見・解決」のプロセスを重視する。 生徒自身が学び方を選択・決定し、学習を調整できる授業構築を目指す。 ・地域資源の活用と探究学習 外部講師を招いた人権教育、健康教育、ヤングケアラー講座などを予定している。

本年度は西東京市の研究指定校（2年間）および都教委のデジタル活用推進校として、ICTを活用した学びを深化させる。

・学習習慣の確立と組織対応

組織的に生徒の学習計画立案を支援する。また、地域の方々の協力を得て、補習や自習教室の充実を図りたい。

・人間関係づくりと自治活動

挨拶を基盤とした関係づくりを継続する。また、学期に一度、学級代表委員がレクを企画するなど、生徒の自治的活動を活性化させていく。

・「三中の日」の取り組み

自ら決めた課題に取り組む時間を設けている。学習に限らず、地域貢献や家庭での活動など、生徒一人ひとりが時間を有効に活用することを目指す。

・生活の自律といじめ防止

規範意識を育てていく。特に中学生らしい身だしなみについては、生徒自身に考えさせる指導を行っている。いじめを許さない学校づくりを強化し、面談等を通じた生徒理解に努める。

・学校組織と働き方改革

組織的な動きを強化するため、校務分掌を再定義した。これにより、特定の教員に負担が偏るのを防ぎ、組織として機能的に動ける体制を整えていく。

会長 これより質疑に移る。

委員 学校経営方針にある「チームの力を生かした課題解決」と、組織図が緻密な構成だが、これらをどのようにして進めていきたいか。

校長 各担当がその分野のスペシャリストとなり、他部署と調整を行うことで組織は強くなる。教務主任からも「学年を貫く方針」の重要性について進言があり、改訂版にその視点を反映させた。

教務主任 本校は、活力のある組織だと感じている。一方で、組織的に取り組む意識を育てる必要があると考えている。校務分掌を整理し、組織的に計画的・機能的に動くことで教員の負担も軽減され、結果として生徒によりよい影響を与えることができると考えている。

委員 私自身の社会人としての経験から、スペシャリストであると同時に、周囲との関係性や「誰が経験者か」という情報の可視化が重要だと感じる。

校長 ご指摘の通り、知見の共有や相談先を明確にすることが課題であった。今回、主担当を明確化し、運営委員会に至るまでのプロセスを明文化することで改善を図りたい。

委員 部活動の計画で平日を3日間にしたのは、生徒にとっても集中して臨めるのでよいと思う。

委員 目指す生徒像を達成するためにもフォローの重要性を感じている。一人ひとりを見てケアしていくことが必要ではないかと思う。

校長 フォローについては当然配慮していく。生徒の成長については、例えば担任がすぐ動く場合ばかりだけではなく、周りの生徒たちと協働し、切磋琢磨する力も育てていきたい。

委員 各学年の経営方針がさらにクラスごとに具体化されているのが面白い。これらは生徒

にも伝わっているのか。

校長 担任の思いを生徒に伝えることは重要であり、今後共有を工夫したい。

委員 計画が非常にタイトに作り込まれている印象だが、ついていけない子への配慮や、心の余裕も必要ではないか。

校長 別室指導での個別支援など、居場所づくりにも努めている。一律の「頑張ろう」だけでなく、個々の特性に寄り添ったケアを担当・組織全体で継続していく。

委員 別室指導の後、部活にそのまま参加できるのは、周りの子たちが受け入れてくれる気持ちがあると思う。大変いいことである。

委員 今日の授業参観で1年生が3年生のように3年間で大きく成長するのだなと思うとても楽しみである。中学校の3年間は生徒たちにとってとても重要な期間なのだと改めて思った。分掌については、精緻なつくりのほうが学校組織は動きやすいと思う。学年・学級方針を生徒と共有することはとても大切である。

次第6 学校経営方針の承認

・全員賛成で承認

副校長 次回は7月3日金曜日、授業参観からを含めると、午後1時30分から午後3時30分までを予定している。

以上をもって第1回学校運営協議会を終了する。